

## 新刊紹介

### 心理學概説 城戸幡太郎著

近來我國にも心理學概説的な著作が殆ど枚擧に遑ない程多數に出版されるやうになつた。中には金儲けのためとしか思へぬ杜撰なブックメーカーの手になつたものもあると共に専門の心理學者の眞摯な努力になつたものも見出されるが、苟、其等の殆ど全部は高等學校程度の教科書用のものであつて方法論的省察を基本とした心理學の體系的論述の如きは未だ極めて稀であつた。併し又我國に於ける心理學進展の現状から顧てかゝるものも當然現れて然るべき時代に達してゐる。其れについて此處に紹介する城戸教授の近著はかゝる方向に於ける試みの一つの先驅をなすものとして注目すべきものたるを失はない。

城戸教授は先に「心理學の問題」を公けにして氏の心理學體系の出發點を示し之に次いで研究を心理學の歴史並に原理の方面に進むべきことを豫告したが、これは其れと聊か離れて氏の立場に於ける心理學體系の素描を興へたものである。此の書は五篇より成り、第一篇より第三篇迄は夫々第一部と第二部にに分れ、前者は氏の立場に於ける一應の心理學概説、後者は之に對する方法論的省察を含んでゐる。細説すれば第一篇問題は其の提示と檢討とに分たれ、其の第一部に於ては心理學の問題を哲學、自然科學、文化科學等の問題と一通り區別し、第二部に於ては之を更に明かにするため形態説に對する氏の表現説と稱するもの、主張、氏の前者

「心理學の問題」に對して與へられた心理學と生物學、倫理學との關係に就いての批評に對する氏の答辭等を録し、第二篇「方法」は之を其の考究と吟味とに分ち、其の第一部に於ては「自己の經驗と經驗の範疇と他人の經驗との三者」を含む心理學の世界の獨自性を中心として其の資料、其の蒐集、整理の方法等を述べ、第二部に於ては批判的内省、表現的實驗、共同的生等の氏の提唱する表現心理學の方法の主張を掲げて第一部の中心點の闡明に努め、第三篇「概念」は之を其の措定と省察とに區別し、第一部に於ては心理學の對象たる精神活動を對象の意識、意識の態度、態度の表現の三に分つて通常感覺、知覺、記憶、想像、思考、感情、意志等と分類して説かれるものを氏の新たな視點の下に組織し直して之を述べ、第二部に於ては感覺、感情、概念の吟味、知覺、思考心理學の問題、心理學的活動或は實驗と生活或は實踐との關係等について更に省察を加へてゐる。次の第四篇は「實驗」であつて氏の本據である法政大學の實驗室に於て氏の心理學の立場に基いて行はれた數箇の實驗を擧げ、終の第五篇は「實踐」として勞働と生活、人間と教育、社會と改革等に分つて心理學の諸分科と生活或は實踐との關係に説き及んでゐる。此の書の特色は右に掲げた其の内容要目に依つても覗はれる通り、氏の心理學の出發點は人間の理解に置かれてゐる。かゝる點から氏の心理學の問題、方法等の考察態度も了解され氏が附録の意味で讀んで貰ひ度いと斷りつゝも兎に角第五篇の如きものを附する所以も會得されるであらうと思ふ。是の如き社會的歴史的世界に於ける人間に向つて理解の道を進めん

とする點など氏の論述に於て異議ある人と雖其の特色として認めざるを得ぬ所であらう。次に看却すべからざる其の特徴は此處に擧げられてゐる文獻は原著であつても又紹介であつても兎に角日本文のものが大部分を占めてゐるといふことである。勿論日本の心理學界の業績のみを以て間に合はすといふことは日下不可能であるが併し從來の我國の心理學書が入門的なものであつても徒らに歐米の參考書のみを擧げて得々としてゐたもの等に對しこれは正に一服の清涼劑を與へるものであると思ふ。併し氏自らも斷られるが如く本書は氏の多年に渉る講義、論文等を集めて纏めたものであるため、思想に於ても叙述の形式に於ても十分統一されてゐない點があり、尙若干誤植或は氏の書き誤りと見られる事實、例へば矛盾冷覺の敘述に於けるが如きなども無いではないことば認めねばならぬ。其他氏の論行には動もすれば飛躍があつて追隨し難いと云ふ人もあるが確に理解し易いと云ふことは出来ない。其れにも拘らず日本の心理學界に近く現れた一つの勞作として、獨創的な思索を含むものとして心理學專攻者其他心理學に少し深く關心を持たれる人々が讀まれるならば暗示を受けられるところも少くはなく、又氏の所說について之を批評し更に論戰を交はすことがあつたらばこれ又我國心理學界に一入の活氣を與へ進展を促すものとして歡迎せらるべきこととならう。且書物の印刷も圖表等に到るまで誠に綺麗であり又價格も餘り高くない。かゝる諸々の意味に於て之を江湖に薦めて敢て差支ないと私は思ふものである。(岩波書店發行、定價貳圓七拾錢)(佐藤幸治)

寄贈圖書

故調須磨著 調須磨遺稿集 福岡市百道女子學院 非賣品

三田哲學會編 哲學 第八輯 丸善株式會社刊 價 壹圓八拾錢

ロックナー著 大江精志郎譯 へーゲル復興と新へーゲル主義 理想社出版部刊 價 八〇錢

寄贈雜誌

哲學雜誌 昭和六年九月 五三五號

丁西倫理會講演集 同八月 三四六號

理想 同九月(へーゲル復興第二冊) 二六號

倫理研究 同八月 一五號

社會學徒 同八月 五卷八號

學校教育 同九月 二一九號

大東 同八月 二六卷七號

生理學研究 同九月 八年九號

奈良縣教育 同八月 二二〇號

信濃教育 同九月 五三九號

願悲 同八月 十年八號

教育問題研究 同九月 六三號

雜誌索引 同九月 二卷十六回